

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和6年度技術情報第19号（野菜類・花き類等のハスモンヨトウ）  
について（送付）



下記のとおり野菜類・花き類等のハスモンヨトウについて取りまとめましたので、周知及びご指導をよろしくお願いたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujosh/o/index.html>）にも掲載しています。

## 令和6年度技術情報第19号

野菜類・花き類でハスモンヨトウの被害が増加しつつあります。また、ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数も多い状態が継続しており、今後、被害の発生・拡大が懸念されます。ほ場を見回り被害を確認したら、下記の項目5を参考に防除を実施してください。

1 対象病害虫      ハスモンヨトウ

2 対象作物          野菜類（エンドウ類，キャベツ等アブラナ科野菜，ピーマン，イチゴ等）  
                         花き類（キク等）

### 3 予報の内容

- (1) 発生地域    県内全域
- (2) 発生量      並～多

### 4 発生状況及び予報の根拠

- (1) 10月中旬に行った巡回調査での発生ほ場率は、エンドウ類で75%（平年20%），キャベツで25%（平年20%），ハクサイで50%（平年値なし），及び他の作物でも平年より多い傾向が認められる（表1）。
- (2) 南さつま市金峰町及び鹿屋市申良町に設置しているフェロモントラップでのハスモンヨトウ誘殺数は、10月以降も平年より多い状態が継続している（図1）。
- (3) 今後ともハスモンヨトウの増殖に好適な気温が続くと予想され、現在発生が少ない品目についても被害の拡大が懸念される。

### 5 防除上注意すべき事項

- (1) ハスモンヨトウ若齢幼虫は集団で表皮を残して食害し白変葉を生じるので、ほ場を見回り早期発見に努める（図2）。
- (2) 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに寄生葉を摘み取り処分する。
- (3) 老齢幼虫に対する農薬の効果は低いので、若齢幼虫のうちに防除する。
- (4) 作用性の異なる農薬とのローテーション散布を行う。なお、一部のジアミド系農薬（プレバソンフロアブル5，フェニックス顆粒水和剤）に対して感受性低下が認められる。他の使用農薬も含め、散布後の効果を確認する。

(5) 施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入を防ぐ。なお、成虫はネット上などに産卵し、ふ化幼虫がネットの目をくぐり抜けて施設内に侵入することがある。

表1 各作物におけるハスモンヨトウの発生状況（令和6年10月16日～22日）

作物名	発生ほ場率(%)			本年発生程度別ほ場率(%)					概評
	本年	前年	平年	甚	多	中	少	無	
<b>【露地】</b>									
エンドウ類	75	38	20	0	0	12	63	25	多
キャベツ	25	25	20	0	0	0	25	75	並
ハクサイ*	50	—	—	0	12	38	0	50	—
<b>【施設】</b>									
ピーマン	6	11	7	0	0	0	6	94	並
イチゴ	36	27	26	0	0	0	36	64	やや多
キク	10	30	6	0	0	0	10	90	並

\*ハクサイは令和6年度から調査を開始したため、前年値、平年値及び概要なし

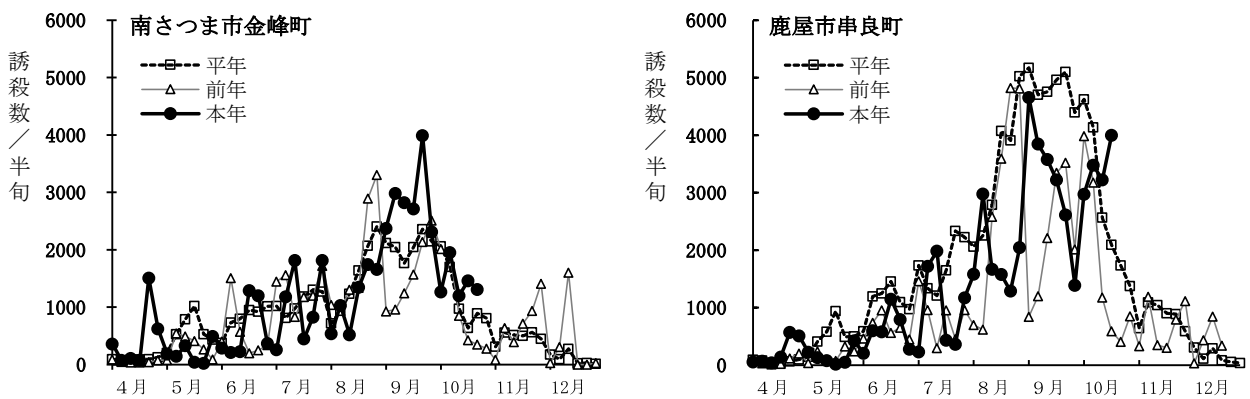


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況（令和6年10月25日現在）



図2 ハスモンヨトウ（左上：若齢幼虫，右上：中齢幼虫，左下：老齢幼虫，右下：成虫）  
黒褐色の斑紋（矢印）がハスモンヨトウにはあるが、ヨトウガ，シロイチモジヨトウにはない。